

令和8年度 施策評価シート《佐賀市未来共創プラン》

政 策		06 生活・環境	豊かな自然に包まれ、人々が心地よく暮らすまち					
佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれがライフスタイルの見直しや脱炭素、自然保護など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していけるように取り組んでいきます。								
2040年に目指す市民等の姿《総合計画》								
1 市民は、主体的に徒歩や自転車、公共交通機関で移動し、市民生活や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで賄われている。 2 市民や事業者は、3Rの大切さを理解し、自ら進んで取り組んでいる。 3 市民は、豊かな自然や身近な生活環境を守るため、自らできることに取り組み、自然と生物と共存するまちで快適に暮らしている。								
重点ポイント			目指す姿や重点ポイントと現状のギャップ					
・市民一人ひとりが脱炭素に向けた行動をとっていること ・産学官連携のもと、事業者が脱炭素経営を行っていること ・再生可能エネルギーの導入と自家消費促進・蓄電池が普及していること ・プラスチックの資源循環をはじめとして持続的に資源を利用する循環経済へ移行すること ・佐賀市の多様な自然や生態系について関心を持ち、自然環境の保全や再生に取り組んでいること			・環境配慮型の選択肢の普及や利便性向上が不足しており、脱炭素型のライフスタイルが定着していない。 ・導入コストや技術的制約が障壁となり中小企業を中心に脱炭素の取組が進んでいない。 ・市内において再生可能エネルギーの普及が進んでいない。 ・使えるものや資源化できるものがごみとして捨てられている。 ・自然環境保全への意識や自然を生かした取組が十分でない。 ・外来生物の増加と多種多様化が生活環境に影響を及ぼしている。					
政策のゴール	温室効果ガス排出量削減率		基準値	目標値	実績値			
			R 5年度	R 10年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
			33.4%	46.1%	45.9%			
	46.2%							
	46.1%							
	46.1%							
	46.0%							
	46.0%							
	45.9%							
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		—●— 実績値		■ 目標値				

施 策	06-3 豊かな自然と心地よい暮らしの調和	施策統括責任課	環境政策課
関係課	環境政策課		
重点的に取り組む施策の方向性			
・佐賀市の多様な自然を生かした環境学習の機会を提供し、生物多様性に関する理解を促進して自然環境の保全や再生に取り組めます。 ・有明海の希少な生物や産物等の恵みを活用し、生活や産業との調和を図ります。 ・市民と協働して、外来生物への対応を強化し、暮らしやすい環境を創出します。			
《総合評価》総括と今後の主な取組			
施策の成果指標である「生物多様性の認知度」は65.9%で、令和6年度実績値56.3%より上昇しているが、まだまだ認知度が高いとはいえない。そのため、既存の自然環境保全に関する普及・啓発活動だけでなく様々な方法を検討しながら、希少種等の保全、市民が自然や生物に親しむ機会の提供等を通して、市民の生物多様性に関する理解を促進するための様々な取組を継続して行う必要がある。 また、東よか干潟を通じて生物多様性の保全を推進していく施設である「東よか干潟ビジターセンターひがさす」についても、更なる来館者数増加に向けた取組が必要であるとする。そのためには、ひがさす単体だけではなく、近隣の施設やイベントを含めて周遊できるような仕組みづくりが考えられる。加えて、底生生物調査の結果を活用し、コンテンツの充実を図りながら、学校や地域団体と連携した環境学習やボランティアガイドの利用促進に取り組み、新規利用者の獲得とリピーターの確保を目指す。 これらの豊かな自然を守る取組と合わせて、自然と暮らし・生物との調和が必要となる。これまでもカラスやアライグマなどによる生活環境被害の軽減対策を行い、自然と生物が共生する景観が形成されたまちを目指してきた。今後はサギの巣撤去や、被害が顕著な松原地区での対策強化など軽減対策を拡充していく。			
年度別 主な取組内容			
R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度
●自然環境の保全を推進するために行う事業 2, 2 6 4 千円 ・自然観察会「さかの生きものさがし」：3回開催（参加者延べ48人） ・トンボ写真コンクール実施（応募点数578点） ・ミヤマアカネの保全活動（3回） ●東よか干潟の保全・活用事業 5, 2 9 7 千円 ・東よか干潟に生息する底生生物の実態調査（2回） ・東よか干潟ボランティアガイドの運営（利用者8,606人） ・東よか干潟ラムサールクラブ活動の実施（クラブ員24人・活動11回） ●カラス対策経費 1 0, 1 6 2 千円			

成果指標						
生物多様性の認知度	基準値	目標値	実績値			
	R 5 年度	R 1 0 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度
	-	71.9%	65.9%			

指標①

Year	Actual Value (%)	Target Value (%)
R7	65.9%	-
R10	-	71.9%

分析

令和6年の調査初年度は56.3%、令和7年は65.9%と上昇した。本市の自然観察会やひがさすにおけるイベント・広報などにより、本市の自然環境に関する普及・啓発活動を行ったことに加え、国（環境省）においても民間事業者や市民に向け、ネイチャーポジティブ（自然再興）の考えを推進していることが要因と考えられる。

指標①

分析

令和6年の調査初年度は56.3%、令和7年は65.9%と上昇した。本市の自然観察会やひがさすにおけるイベント・広報などにより、本市の自然環境に関する普及・啓発活動を行ったことに加え、国（環境省）においても民間事業者や市民に向け、ネイチャーポジティブ（自然再興）の考えを推進していることが要因と考えられる。

重点的に取り組む事業 ①

希少種等の保全、市民が自然や生物に親しむ機会の提供

成果

市民が生き物の観察や採集等を通し、自然や生き物を大切にしようとする意識の醸成を図るため、自然観察会「さかの生きものさがし」の開催、トンボ写真コンクールの開催、希少なトンボ（ミヤマアカネ）の生息地保全活動などを実施した。その結果、多くの子ども達が本市の自然や生物に親しむことができ、自然環境保全意識の向上につながった。

問題点とその要因

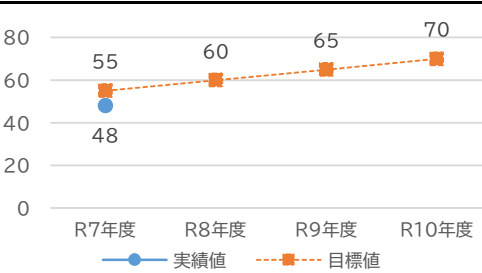
幼い頃から自然や生物に触れることで、自然環境への愛着を育み、自然環境保全の意識醸成につながると考えられる。しかしながら、現在行っている自然観察会「さかの生きものさがし」も、参加者が減少するなど、自然や生物に親しむ機会を十分に提供できていないため、他の手法をはじめ提供方法を検討する必要がある。

今後の取組方針

本市の豊かな自然環境について興味・関心を持つように、SNS等を含めた様々な広報を通して市民等に広く周知を図っていく。自然観察会「さかの生きものさがし」については、開催場所や開催時期によって、参加者数に増減があるため、より多くの方が参加しやすい場所・時期を考慮して、開催していく。また、令和8年度より、参加対象者を小学3～6年生とその保護者から、小学1～6年生とその保護者に拡大し、幼いころから自然に親しむきっかけづくりを行う。

主な重点取組事業

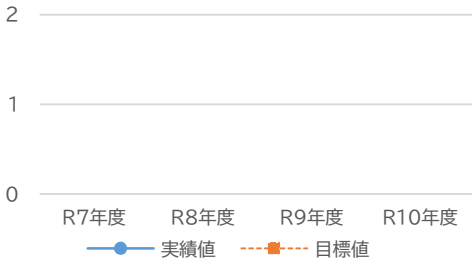
事業名		自然環境保全推進経費			
担当課		環境政策課		事業期間	平成 31 年度 ～ 令和 年度
事業概要・目的		佐賀市の多様な自然を未来に引き継ぐため、希少種等の保全を図るとともに、市民が自然や生き物に親しみ、自然環境を保全する意識の醸成を図る。			
該当年度取組実績		・自然観察会「さかの生きものさがし」の開催：3回（参加者 延べ48人） ・トンボ写真コンクールの実施（応募点数578点） ・希少なトンボ（ミヤマアカネ）の保全活動（富士町）：3回 ・自然環境懇話会の開催（1回）及び公共工事の実施前後の環境調査（調査件数6件） ・白石原湿原（久保泉町大字下和泉）の維持管理 ・金立公園蓬萊池浚渫：1回			
成果	指標	自然観察会参加者延べ人数			単位 人
	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	目標値	55	60	65	70
	実績値	48			
	達成状況	達成できていない			
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	総事業費	2,264千円			
	うち市費	2,264千円			
	（※職員人件費は含まない）（千円）				



年度	実績値	目標値
R7年度	48	55
R8年度		60
R9年度		65
R10年度		70



重点的に取り組む事業 ②										
東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」を活用した交流・学習機会の創出										
成果										
東よか干潟の保全と利活用の推進に向け、実態調査、ボランティアガイドの運営、環境学習活動及び記念事業を実施した。その結果、東よか干潟の保全に必要な基礎資料の充実を図るとともに、市民等の環境保全意識の向上及び東よか干潟の認知度向上につながった。										
問題点とその要因										
令和7年度のひがさす来館者数は84,703人、ボランティアガイド利用者数は8,606人となっており、いずれも令和6年度と比較して増加しているものの、東よか干潟の魅力や保全の重要性を広く発信し、市民や来訪者の環境保全意識のさらなる向上を図るためには、利用者層の拡大やリピーターの確保、効果的な普及啓発活動の充実が課題となっている。										
今後の取組方針										
東よか干潟の魅力や保全の重要性を広く発信するため、SNSやイベント等を活用した情報発信を強化するとともに、学校や地域団体と連携した環境学習やボランティアガイドの利用促進に取り組み、新規利用者の獲得とリピーターの確保を図る。また、底生生物調査結果を活用し、東よか干潟の生物多様性への理解促進と環境保全意識の向上を図る。										
主な重点取組事業										
1	事業名		ラムサール条約湿地賢明利用推進事業							
	担当課		環境政策課		事業期間		令和 2 年度 ～ 令和 年度			
	事業概要・目的		ラムサール条約の理念である「保全・再生」「ワイズユース（賢明な利用）」「交流・学習」に基づく取組を推進し、東よか干潟の魅力向上と自然環境の保全を図るとともに、市民や来訪者の環境保全意識の向上と保全活動への参画を促進する。							
	該当年度取組実績		・ 東よか干潟に生息する底生生物の実態調査 2回 ・ 東よか干潟ボランティアガイドの運営 ガイド数 18人（利用者数 8,606人） ・ 東よか干潟ラムサールクラブ活動の実施 クラブ員 24人（活動数 11回） ・ 東よか干潟ラムサール条約湿地登録10周年・ひがさす開館5周年記念式典等を実施 参加者数：800人（記念式典 130人、東よか干潟体感フェスタ 670人）							
	成果	指標	東よか干潟ビジターセンター来館者数		単位	人				
		年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		目標値	75,000	80,000	85,000	90,000				
		実績値	84,703							
		達成状況	達成している							
	決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		総事業費	5,296千円							
		うち市費	1,557千円							
(※職員人件費は含まない) (千円)										

重点的に取り組む事業 ③										
増え続ける外来生物やカラス等への対策の強化										
成果										
増加する個体数を調整する対策として、巣の撤去や卵・ヒナの駆除、箱わなによる捕獲を行った。また寄せつけない対策として、音声やLEDライトによる追い払い、電線への鳥害防止器設置などを実施した。その結果、カラス、サギによるフン害などの生活環境被害の軽減につながっている。										
問題点とその要因										
これまでも箱わなによる捕獲でカラスの個体数調整を行ってきたが、ミヤマガラスなど箱わなの効果がでない種類もいる。また、カラスの飛来状況によって、被害時期やエリアの違いも見られる。そのため、飛来する時期やねぐらなど種類の違いを踏まえ対策の幅を広げる必要がある。										
今後の取組方針										
カラスのねぐらとなる樹木が多く存在する松原地区は生活環境被害が顕著であり、令和8年度からを重点的に対応する。 また、カラスの生態系を踏まえた対策も検討する。例えば、ミヤマガラスがねぐらに集まる行動を調査し、集団ごとの状況を把握することで、ねぐらに入る前の追い払いに活用する。										
主な重点取組事業										
1	事業名		カラス・サギ対策経費							
	担当課		環境政策課		事業期間		令和 8 年度 ～ 令和 年度			
	事業概要・目的		市民が日常生活を豊かで快適に過ごすために、安心・安全で衛生的な地域環境を守り、育てていくことを目指す。 また、自然と生物が共生する景観が形成されたまちを目指すため、カラス、サギによるフン害などの生活環境被害の軽減対策を拡充する。							
	該当年度取組実績		生活環境被害の軽減のため、平成26年からカラス対策に取り組んできた。 具体的には、カラスの卵やヒナ、巣の撤去、箱わなを用いた捕獲を行っている。追い払い対策として、カラスの警戒音を発する音声機器でカラスの追い払いを実施している。また、寄せつけない対策として、カラスを追いつめるためのLEDライトの貸し出しを行っている。 近年は被害が顕著なエリアやサギによる被害も発生しており、対応すべき範囲が広がってきた。そのため、令和8年度から対策を強化し、生活環境被害の軽減を目指す。							
	成果	指標					単位			
		年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		目標値								
		実績値								
		達成状況								
	決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		総事業費								
			うち市費							
				(※職員人件費は含まない) (千円)						



